高等教育研究センター
かわらばん
冬号
名古屋大学
高等教育研究センター
ニューズレター第25号

70周年を言祝ぐたった一つの冴えたやり方

２００８年の大晦日をもって、高等教育研究センター長職をしりぞきました。この４年間の全学のみなさまの、あたたかいご支援、ご理解、ご指導に心より感謝いたします。ありがとうございました。

というわけで、『かわらばん』の紙面を私物化できるのも、これが最後の機会となったわけです。いや～。残念だなあ。そこで最後に、この紙面をお借りして、ちょっとみなさんにささやかなご提案をしておこうかなと思います。とある会議で議論しているときに、みんなで考えたことです。

今年は、名古屋大学創立70周年だそうです。キリがいい数字だと、人はなぜだかお祝いをしたくなるみたいですね。70も69も同じ自然数ではないか、どうせ祝うなら75周年では、などという野暮は言いっこなしです。お祝いしましょう。言祝ぎましょう。折りもおり、ノーベル賞受賞で、名古屋大学の動向が全国に報道される機会もこれまでになく増えてきました。さて、そうすると大問題は、どんな風にわれわれは創立70周年を祝ったらよいのか、ということです。こいつをひとつ考えてみましょう。世の中の注目を集め、心ある人々からさすがは名大と感心され、ついでに寄付も集まる冴えたやり方はあるでしょうか。妙案を思いつきましたので、ご披露しましょう。それは、

祝わない。

ということです。なんじゃそれ、とお怒りの顔が浮かびますが、まあ、ちょいと聞いて下さいお立ち会い。祝賀行事をするには、かなりの出費がかかるでしょう。うん千万は下らないでしょう。そのお金を、学生の奨学金にまわすのです。ご存じのように、わが国は「みぞうゆう」の不景気のまっただ中にあります。保護者のリストラや賃下げなどにより、これからしばらくの間、授業料が払えずに学業が続けられなくなる学生が出てくることでしょう。そこで、祝賀行事に予定されている予算を使って緊急対策的な大学独自の奨学金制度をスタートさせた上で、「名古屋大学は、今年、創立70周年だが、学生の置かれた状況を考えれば、とてもそれを祝っている場合ではないと判断した。そこで、一切の祝賀行事を取りやめて、その資金を、すべての学生が学業を成就するために使うことにした。名古屋大学は、この非常事態にあたって、経済的困難を理由にキャンパスを

かわらばんへの皆さまのご意見・ご感想を裏面のEメールアドレスまでお寄せください

「大学教育改革フォーラムin東海2009」を開催します

2009年３月７日（土）に東海地域の大学の教育改革に関する意見交換の場として、「大学教育改革フォーラム in 東海 2009」を開催します。このフォーラムは、各大学の現場で改革に取り組んでいる教員・職員の「草の根交流会」です。

今回は、南山学園マルクス理事長の基調講演やパネルディスカッション「授業時間外の学習をどう支援するか」のほか、「学習意欲を高める授業上の創意工夫」「認証評価への対応」「高校は大学をどう見ているか」「FD・SD のノウハウをどう共有するか」などの個別セッションをご用意しました。東海地域の大学教育、大学改革の取り組みに関するポスター発表も募集しております（締切１月30日（金）、詳しくはウェブサイトをご覧ください）。

多くの方のご参加をお待ちしております。

日　時：2009（平成21）年３月７日（土）午前10時～午後６時
会　場：東山キャンパス IB 電子情報館　　参加費：無料
お問い合せ　info@cshe.nagoya-u.ac.jp
ウェブサイト　http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tf2009/

高等教育研究センターでは、FD・SD コンソーシアム名古屋の事業として、教職員の自己研鑽を支援しています。大学コンソーシアム京都主催の FD フォーラムや大学教育研究フォーラム（ともに３月開催）など、資質向上のための研究会等への年度内のご参加について出張助成もできますので、この機会をぜひご活用ください。

募集人員：本学教職員若干名
応募締切：2009年１月23日（金）正午
応募方法：電子メール本文に、ご参加になりたい研究会等の情報（名称、日時、場所）と、ご氏名・ご所属・内線番号・電子メールアドレスを記入し、info@cshe.nagoya-u.ac.jp までお送りください。
お問合せ：久保田祐歌（内線5696、電子メール info@cshe.nagoya-u.ac.jp）

アメリカの大学改革の最前線を見てきました

10月22日（水）から25日（土）の４日間、米国ネバダ州リノで、大学改革に関わる教職員のためのカンファレンス（2008 POD Network/NCSPOD Conference）が開催されました。このカンファレンスにあわせて、名古屋大学、中京大学、南山大学、名城大学の教職員計14名が渡航し、FD・SD コンソーシアム名古屋の活動としてカンファレンスに参加してきました。

カンファレンスでは、ワークショップやラウンドテーブル、セッションなどが並行して進んでいきました。いずれにおいても、発表者が一方的に話すのではなく、参加者が自由に質問する形式がとられ、グループワークもたびたび行われました。テーマは、FD の内容と評価、SoTL（Scholarship of Teaching and Learning）、学習者中心の教育など多岐にわたりました。大会に参加するだけで、いま米国の高等教育でなにがテーマとなっているかをほぼ理解できるほどです。食事会では、諸外国の教職員とはもちろん、これまでそれほど接する機会のなかった４大学の教職員同士が交流する機会がもてました。このことは今回の海外研修の最大の収穫かもしれません。

今後は、研修で得た知見を名古屋でどのように生かしてゆくのかが課題です。まずは2009年３月７日（土）に開催される大学教育改革フォーラム in 東海 2009 で、研修参加者たちが発表を行う予定です。

（久保田祐歌）

去る学生を一人も出さないことを決意した。同窓生の皆さん、今年はついでにホームカミングデーも取りやめです！　ご理解を！」と大々的に宣言し、キャンペーンします。大事なことは、設立するのは「奨学金」という名のローンではなく、本来の意味での「奨学金」だということです。インパクトがあると思いますよ。

そうして、この独自の奨学金制度が維持できるように、ぜひともご寄付を！と訴えます。漠然と70年だから寄付してチョ、と言うより、集まりがよいのではないかと思うんですけど。こうして救われた学生は、大学が学業を続けさせてくれたということを決して忘れないでしょう。将来、同窓生のコアになってもらえるのではないかと思います。何十年後かに、出世払いで寄付してくれるかもしれませんね。

この数年間、全国で進んだ大学の変質を一言で表現するならば、「市場原理による大学の蚕食」ということに尽きるのではないか、と思います。教育が「サービス」という枠組みで語られ、商品（教育だったり、卒業生だったり）の「質保証」が求められ、という具合です。先日私は、自分が教育を語るときに、いつのまにかこうしたビジネス用語を使うようになっていることに気づいて、愕然としました。みなさんはどうでしょうか？「PDCAサイクルを回して」とか言っちゃってません？

もし、大学が「教育」という商品を売るビジネスであり、学生は自分の市場価値を高めるために授業料と引き替えに教育サービスを購入する消費者であるとするなら、授業料が払えなくなった学生は、もはや「お客さん」ではありません。飲み屋のマスターではありませんが、「お客さ～ん、お金ないんだったら、いつまでもねばってないで、かえって寝なよ」ということになります。

でも、それでいいんですか？いいわけないよな、と私は思います。

（前センター長　戸田山和久）

今年３月にオンデマンド版として出版した『英語で教える秘訣』が、書名を変えて『大学教員のための教室英語表現300』になり、広く書店でも購入できるようになりました。フレーズの音声を収録したCD が新たに加わりました。

Higher Education Glossary
高等教育にまつわる用語集

初習教育
Introductory Course

少子化に伴い、各大学は志願者を確保するために入試科目を削減する傾向にあります。来たる平成２１年度国公立大学入試においても、推薦入試の実施割合は92.9%、いわゆるAO（アドミッションズ・オフィス）入試の実施割合は41.0%に上り、一貫して増加傾向にあります。センター入試を受けた後の二次試験（個別学力検査）においても、国立大学では２教科型が、公立大学では１教科型が主流となっています。こうした傾向は私立大学においても顕著です。入試科目の減少に伴い、志願者の学習履歴が不十分となり、入学後の基礎学力不足が深刻化しつつあります。このため、高校での履修内容の補習を行う大学が急増しています。たとえば、高等学校の理科では化学と比較して物理や生物の履修率が低いため、未履修者および中途履修者のために、多くの大学では入学前もしくは入学後に補習教育を実施しています。数学や英語の補習を実施する大学もあります。

近年では、補習教育からさらに発展して、高校での履修者と未履修者を区別せずに、大学入学者全員に対して一定の学習到達目標を設定し、専門基礎へと水路づけを行う「初習教育」の試みも始まっています。北海道大学の「基礎理科」では、カリフォルニア大学バークレー校の初習カリキュラムをモデルとし、物理学や生物学の初習教育を大規模授業の形で実現しています。この「基礎理科」には、大教室における演示実験や複数のTAによる学習サポート、Ｅラーニングシステムの活用、演習問題や詳細な解説を含んだ教科書の活用など、学生の学習意欲を高めるためのさまざまな工夫が凝らされています。初習教育では文字通り「初めて習う」という前提に立って、プログラムを編成することが求められます。その際に鍵となるのは、到達すべき基準を設定し、学生に明示することと、初習者の学習意欲を刺激するような丁寧な教材づくりであると言われています。

（近田政博）

読んでおきたいこの1冊
Great Books on University

サイモン・シン著　青木薫訳

『暗号解読[上][下]』

新潮文庫　　2007年

現代の情報化社会において暗号技術はかかせないものとなっている。いっぽう、暗号技術を理系的な情報分野の専門技術と決めつけ、ブラックボックスに閉じ込めてしまうきらいもある。しかし、暗号解読技術は古代文字の解読技術に通じるところがあり、考古学のような文系的な分野とも密接な関係にある。また、第一次大戦下ナチスドイツの暗号機エニグマを用いて打電される暗号に対して、イギリスの言語学者と数学者が手を取り合って暗号解読に挑んだこともあった。暗号とは特定の学問分野に限られたものではなく、言語学・歴史学・数学・情報学という広い分野にまたがった文理横断的なテーマなのである。

本書は暗号の作成技術と解読技術の古代から現代に渡る変遷を、初心者の私たちにもわかりやすく解説してくれる導入書である。本書においては暗号作成者および暗号解読者の「人間ドラマ」が素晴らしく演出されているため、暗号技術の詳細を読み飛ばしても十分に楽しめるほどである。しかし、暗号作成者と暗号解読者の熾烈な戦いの争点を見極めたいならば、多少の労力を払ってでも暗号技術の詳細を理解することをお勧めしたい。本書の内容を理解するのに必要なのは少々の論理的思考だけであり、難しい数学や理論は不要である。そこにまた著者の説明の巧妙さを感じとることができるだろう。このような巧妙な解説は、素粒子物理学における研究経験を持ち、現在は英テレビ局BBCで活躍する著者だからこそなせる技なのかもしれない。

科学技術が進歩するほど、文系と理系の間を意識的につなぐことが重要となる。パソコンの箱の中身には興味の無いあなたも、暗号技術のブラックボックスをここで１つ開けて、文理融合の世界をのぞいてみてはいかがだろうか？

（安田淳一郎）

高等教育研究センタースタッフ（2009年1月現在）

センター長　木俣元一
専門領域：西洋中世美術史
教授　夏目達也
専門領域：高等教育学、技術・職業教育論
准教授　近田政博
専門領域：比較高等教育学、初年次教育
准教授　中井俊樹
専門領域：大学教授法、高等教育マネジメント
助教　齋藤芳子
専門領域：科学技術社会論
特任講師　安田淳一郎
研究員　久保田祐歌

＜平成20年度　海外客員＞
施暁光　（中国・北京大学）
ジョディ・ナイキスト　（米国・ワシントン大学）

＜平成20年度　国内客員＞
佐藤浩章　（愛媛大学）
米澤彰純　（東北大学）
舘　昭　（桜美林大学）

名古屋大学高等教育研究センター
〒464-8601　名古屋市千種区不老町
Tel 052-789-5696
Fax 052-789-5695
E-mail　info@cshe.nagoya-u.ac.jp
URL　http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/

『かわらばん』名古屋大学高等教育研究センター　ニューズレター冬号（第25号）2009年1月発行
編集長　夏目 達也　編集幹事　齋藤 芳子